

令和3年7月27日

7月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では原木生産が順調で、入荷は例年になく多いところに虫害も出ているため値が出にくい。ヒノキ小径材が値を下げ、入札も少なく売りづらい状況にある。4月中旬以降元落ちはなく6月も完売である。スギ、ヒノキとも柱材、中目材は全体的に弱保合だが、ヒノキ4m材は保合で推移。製材工場の手持ち在庫が多いため材の引取が鈍く、共販所の土場を圧迫している。

群馬でも原木入荷は順調、原木価格は上げ止まっている。降雨と害虫の影響で集荷を控えている。製材工場は需要が多くフル操業だが、供給が伴っていない。スギの間柱、仮筋交い等を中心にパンク状態が続いている。製品価格の上昇と需要の過多で値段を決めかねる状況。特に柱、間柱は高値で張り付いている。

2. 米材

カナダ・米国とも好天に恵まれ、原木の出材は順調であったが、6月下旬に熱波が北米北西部を襲い、その後も晴天続きの予報で今後の伐採への影響が懸念される。港頭在庫は低水準が続いているが、輸出需要に見合う供給は行われている。ただし北米産地の山火事警戒レベルが上昇し、伐採規制が行われると一気に港頭在庫が払底する可能性がある。米マツ IS 級並の7月対日輸出価格(推定)は前月比\$30 アップの\$1,080 になった模様。海上運賃はリーマンショック後の最高値を更新中である。一方、米国の製材品価格は急落しており、SPFは5月中旬の最高値のほぼ半値の水準に下落したが、依然として歴史的な高水準の価格帯である。ただし米国内の需要が堅調なため、底打ちすれば再上昇の可能性が高いと予想される。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(7/2)は\$770/Mとなり、5月末に比べ51.5%の下落。6月中旬頃から現地DIY向けに一服感が見られ始めた。米国住宅着工戸数に変化はないものの、市場には若干の在庫が出始めてきた。

5月原木入荷は260千 m^3 と3ヵ月連続の200千 m^3 台になり、1~5月累計で1,029千 m^3 (前年同期比29.9%増)、カナダからの入荷は前年同期比169.1%増。出荷は232千 m^3 、1~5月累計は1,012千 m^3 (同26.0%増)。在庫は増加し160千 m^3 、在庫率は0.83ヵ月と1ヵ月を切った状態が続いている。東京木材埠頭の6月入荷は21千 m^3 (前月比19.1%増)、出荷は19千 m^3 (同11.3%増)、

在庫は 27 千³m (同 6.8%増)。国内米材製材最大手は 3 月から 4 ヶ月連続の値上げを表明し、7 月も再値上げが予想される。

3. 南洋材

サラワク州では 6 月の天候が良好で原木生産は順調であったが、日本向け良材の生産が少なく、集材は非常に困難な状態。台湾・インド・日本向けそれぞれ 1 船ずつ入港した。PNG では雨期と乾期がはっきりせず、雨が降ったり止んだり为天候が続き、原木生産は悪い。PNG からの入荷は 9 月まで無い模様。原木がタイトになるため日本の製材メーカーは配船が急がれる。半島マレーシアはロックダウン中、インドネシアのスラバヤも 7/20 までロックダウン。7 月予想の原木入荷は 0、出荷は 3 千³m、在庫 7 千³m。製材品入荷は 32 千³m。

4. 北洋材

産地では夏山伐採に移行し、対日主力工場への原木搬入はカラマツが多く、アカマツ良材は少ない。対日オファー数量は引き続き少ない。強気シッパーではアカマツ原板が \$650 超え、アカマツ製品は \$850 を超えて \$1,000/m³ 水準も見られ、高値警戒感が出ている。日本側では高値疲れで一服気味。現地挽きアカマツ野縁製品の流通玉は川上サイドで多少増えており、値段を出せば必要量は買えるムードになっている。遅れていた原板の契約残が入荷しており、国内製材工場の原板在庫は多少改善された。受注は一般、DIY ルートとも引き続き順調。来年春まで製品入荷は増えないと予想されるが、100,000 円/m³ を超える価格が続くかは疑問である。7 月予想の原木入荷は 1 千³m、製品入荷(東京+川崎) 20 千³m、出荷 17 千³m、在庫 27 千³m。

5. 合板

合板用原木の国産材は不足が慢性化しており、引き合いも強く価格は強含み。ロシア材は出材限定的で強含み。米材は出材が順調に進んでおり、価格は強気姿勢。

5 月の国内合板生産量は 25.4 万³m、うち針葉樹合板は 24.6 万³m、出荷量は 25.4 万³m で在庫量は 9.6 万³m、このうち構造用合板の在庫は 7.8 万³m とかなりの低水準である。針葉樹合板は各メーカーで低水準の在庫が続いており、納期にかなり時間を要している。価格も値上がりしており強気姿勢。輸入合板は殆どの品目で慢性的な品不足で月を追う毎に厳しくなっている。価格も値上がり傾向。5 月の合板輸入量は 20.4 万³m となり、マレーシア産の入荷は先月から回復しているが、インドネシア・中国・ベトナム産は減った形となった。インドネシアでは原木不足が続いており、価格も大幅に上昇。各国か

らの引き合いも強い状態が継続。マレーシアではロックダウンの影響で原木不足と従業員不足になっており、限られた生産量になっている。

6. 構造用集成材

6月ラミナ入港量はやや少なかった。遅れていた輸入集成材が入港し始め、平年並みの量になっている。第3・四半期交渉でラミナは前回比€300以上のオファーとなり、€500後半～€650/m³の唱えだが、オファー量は少ない。特に柱用ラミナが前回に引き続き少ない。製品にすると、130,000円/m³以上となり、秋以降の価格はさらに上昇するだろう。輸入集成材もラミナ同様に€850～1,150/m³とメーカーにより多少の価格差がある。秋以降、現在の倍になる集成材が入荷してくることになる。ラミナ同様、管柱のオファー量は少ない。管柱がラミナ、輸入集成材とも少なく、不足感が強まるものと予想される。

7. 木材チップ

チップ原木の入荷は低調だが、製紙・バイオマス用とも引き合いは強い。解体材は例年受入制限を行う地域があるが、今年は総じて少ない。製紙用の国内チップは一部操短状況にあり、配合比率もあり、消費量は増えない状況。燃料用チップは例年大型定期修理で市況がだぶつくが、今年はダブツキ感が少ない。在庫量は調整状況にある。国内チップ工場では各社とも一服感が見られる。

8. 市売問屋

スギ、ヒノキのKD材、GR材の角類不足が目立ってきた。外材構造材は問屋への入荷が少ないため少量売りに徹している。価格の高騰は材木店に浸透してきたが、材木店は冷静な対応をしている。この相場がいつまで続くのか先行きがわからないため、問屋も材木店も困惑している。

9. 小売

ウッドショックの影響は収まる気配がなく、建築業者にも分譲物件の遅れなど様々な影響が出始めている。スギ、ヒノキとも柱材の不足が深刻である。スギ間柱に注文が殺到し、価格は納品時の「時価」の状態。米ツガは相変わらず供給量が少なく、入荷毎にかなりの値上がりになっている。欧州材は流通量が非常に少なく価格も高騰している。WW集成柱の在庫が底をついてきた。ロシア材、野縁材は品薄でなお高騰している。在庫を切らすことはできず買っているが、どこまで価格を追いかけるか判断が難しい状況にある。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和3年7月27日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	↘	→	↘
北洋材	丸太	→	*	*
	製材品	→	→	→
南洋材	丸太	↘	↘	→
	製材品	→		

注)北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記の様に示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
↗	↘	↘	↘

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材 (3m) 2等	↘
			スギ中丸太 (3.65m) 2等	↘
			ヒノキ柱材 (3m) 2等	→
			ヒノキ中丸太 (4m) 2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	↑
			スギ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	↑
			スギ間柱 (KD) 10.5×3.0×3m 特等	↑
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ 3.0×4.0×3.65m	↗
ヒノキ柱角 (KD) 10.5×10.5×3m 特等	↑			
ヒノキ柱角 (KD) 12.0×12.0×3m 特等	↑			
ヒノキ土台角 12.0×12.0×4m 特等	↑			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	↗
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	↗
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角 (KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	↗
			SPF 2×4 J-Grade R/L	↗
			米ヒバ土台角 (GR) Std&Btr 4・13/16'' 13'	↗
米マツ平角 (KD) 特等 10.5×24.0×4m	↗			
南洋材	丸太	産地価格	メランティレギュラー	→
		東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用	→
			メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
	製材品	産地価格	ホワイトセラヤ 平割 (サバ州産)	↗
		東京・問屋店頭 渡し価格	同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	→
北洋材	製材品	国内卸売価格 (京浜・オントラ)	アカマツ (KD) 30×40上級	↗
		アカマツ (KD) 16×40上級	↗	
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC	↗
		ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗	
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ	↗
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	↗
	欧州産	//	10.5×10.5×2.98m	↗
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	↗
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	↗
			型枠 12.0mm厚 3×6	↗
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↗